

五建第 124 号
平成 20 年 10 月 20 日

国土交通省道路局長 殿

五戸町長 三 浦 正 名



今後の道路行政についての意見・提案の提出について

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、平成 20 年 9 月 19 日付 国道企第 37 号で依頼のありました
標記について、別添の通り提出します。

- 当地方を取り巻く現状は、若年層の流出による高齢化・過疎化が大きな問題となっている。これらの問題解決に、地場産業の振興、都市と農村交流の促進、観光資源の活用等が考えられるが、この対策には、あらゆる産業の基盤となる道路網の整備は欠くことができない要因となっている。中でも県南地方の拠点都市である八戸市との両地域間の交通体系の整備を図ることは、物流、若年層の雇用促進、通学の安全確保がなされ、町の活性化が図られるものと期待される。他に、
- ・ 県南地方の拠点病院となっている八戸市民病院等への利便性を高め、緊急搬送等時間の大幅短縮がなされ、安全安心なまちづくりに貢献できる。
 - ・ 国道454号へのアクセスとなり、冬期閉鎖解除により十和田湖の冬期間の新たな観光ルートとして、観光客の増加が期待できる。
 - ・ 国が目指す大きい括りでの広域合併を実現するためには、近隣市町村間の広域道路網の整備が不可欠であり、この整備により地域住民サービスの低下が避けられ、大規模合併の気運が醸成され合併促進が図られる。

等から、地域の活性化向上のため、八戸西 IC は建設費用が低コストでコンパクトなスマート IC での建設促進及び国道454号の視距改良や歩道整備及び冬期閉鎖解除を要望します。

- 本町における道路は、高度成長期に舗装整備が促進されていますが、建設後20年以上経過しているものも多く、高齢社会を迎えた今日、早急な舗装の全面打替えや車道と歩道の段差の解消等が求められています。道路建設には一定の助成があるものの、これら維持補修費用は、町の単独負担であることから、厳しい町の財政の中では限界があり、毎年多くの修繕工事箇所が蓄積されています。

又、昨年の米ミネソタ州の高速道路の橋梁崩落事故から端を発し、橋の定期点検が市町村に義務化されています。このため市町村では、橋梁長寿化修繕計画策定の点検業務に多額の費用を要することになりますが、昨今の地方交付税の大幅な削減等により、その費用捻出が難しく、これら道路の舗装全面打替え等維持管理や橋梁の長寿化修繕計画に係わる点検費用について、新たな助成制度を講じられるよう要望します。

○現状

当地方を取り巻く現状は、若年層の流失による高齢化・過疎化が大きな問題となっている。これらの問題解決には地場産業の振興、都市と農村の交流促進、観光資源等の活用等が上げられるが、この対策には道路網の整備が欠くことのできない要因となっている。中でも県南地方の拠点都市である八戸市との連携を密にする上でも、両地域間の交通体系の拡充整備を図ることによって、物流はいうまでもなく、雇用の場、通学の間が確保され、町の活性化が図られるものと期待されている。

本町の道路体系は国道２路線（４号、４５４号）、を始め、県道９路線、町道５０８路線で構成されており、町道延長は緩やかながら増加しています。舗装率も向上していますが、未だ６５％程度に留まっています。一方では少子化現象にもかかわらず自動車の保有台数は年々増加しており、通勤・通学、産業活動のための基盤として隣接市町村間を結ぶ広域道路網の整備が急がれる反面、路線バス利用者の激減に伴いバス路線の維持が困難な状況になっています。又集落内や集落間を結ぶ生活道路、アクセス性の高さとともに、安全性や快適性に配慮した道路の整備が強く望まれている。

○課題

今後の道路整備は、東北新幹線八戸駅、三沢空港、東北自動車道等の高速交通体系へのアクセスが重要になることから、隣接市町村一体となって関係機関に働きかけしているが、道路特定財源が一般財源化される厳しい財政状況の中で、早期採択の見通しは立たない状況にある。

本町における道路は、高度成長期時代に舗装整備が促進されたもので、建設後既に２０年以上経過した道路も多く、高齢社会を迎え、舗装の全面打替えや車道と歩道の段差の解消等が求められています。

昨年の米国ミネソタ州で多数の死傷者が出た高速道路橋梁崩落事故により、橋梁の定期点検が市町村に義務化され、橋梁長寿命化修繕計画の策定が必要となり、計画策定のための点検等多額の負担が必要となります。道路建設には一定の助成があるものの、舗装打替え等の維持修繕や、計画策定に関わる点検費用等は、町の単独負担であることから、昨今の地方交付税の大幅削減等により、経費の捻出が困難となっている。

又、車を運転しない人が、移動に不自由を感じない利便性の高い公共交通機関の整備とバス路線の確保も課題となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

青森県五戸町

五戸町の将来像は、みんなで創る、「活気あるまち”五戸”」を目標に次の5つの基本方向を定めております。

基本方針1、住んでみたい、住みつづけたいまちづくり

基本方針2、ふれあいと活気あるまちづくり

基本方針3、いきいき健康あふれるまちづくり

基本方針4、町のよさをはぐくむまちづくり

基本方針5、みんなでつくる誇れるまちづくり

この5つの方針を基本として、快適で住みやすい生活基盤構築のため、周辺市町村や高速交通体系（三沢空港、東北縦貫道八戸 IC、東北新幹線）へのアクセス性の高い基幹道路の整備、安全で快適な生活道路の整備、公共交通サービスの確保等の道路・交通ネットワークの整備を図り、「潤いのある町づくり」を進めて参ります。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）

青森県五戸町

○重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価	○その他
地域活性化の向上	五戸地方の産業振興・活性化は県南地方の拠点都市八戸市を中心とした隣接市町村との連携した道路網の整備が必要である。 1、東北縦貫道八戸西 IC の早期整備 ✓ 2、国道454号の視距改良、歩道整備、 冬季閉鎖解除 ✓ 3、国道4号の拡幅及び歩道整備 ✓	隣接する市町村間の交通体系の整備・拡充により物流、企業誘致による若年層の雇用の場、通学路が確保、八戸西 IC、及び環状線の整備により高速交通体系が整備され、拠点病院である八戸市民病院への交通の利便性も向上し、安全安心まちづくりに貢献。 ✓ 東北縦貫道八戸西 IC が整備されることにより国道454号、国道4号、主要地方道である県道、市町村道路網までの高速交通体系のアクセスが整い、地域住民へのサービス低下が避けられ、大規模合併の気運が醸成される。 また、国道454号の冬期閉鎖解除により八戸駅から十和田湖までの冬期観光ルートが開設され、観光客の流入が期待される。	

少子高齢化に対応した社会形成	1、舗装の全面打ち替え及び車・歩道の段差解消整備	到来した高齢社会に対応したバリアフリー化の推進により、安全・安心なまち作りが図れる。	
総合的な交通安全対策及び危機管理対策	1、東北縦貫道八戸西 IC の早期整備 2、橋梁定期点検に伴う橋梁長寿化修繕計画策定事務（橋梁30基）	八戸西 IC の早期整備により災害時の代替え IC としての機能を見込める他、県南地域の拠点病院等への搬送、通院時間の短縮が図れる。 災害のない安全・安心なまちづくりが図れる。	